

Filippo Costa

フィリッポ・コスタ



国・地域	: Italia, Veneto	イタリア、ヴェネト
地区、村	: Asolo, Crespignaga	アーゾロ、クレスピニャーガ
醸造・栽培責任者	: Filippo Costa	フィリッポ・コスタ
HP / SNS	: https://www.instagram.com/filippo_costa/	

ワイナリーと造り手について

ヴェネト州、トレヴィーゾの街から北西、アーゾロの地域でワインを造るフィリッポ・コスタは同地域の出身。高校を卒業するころからワイン造りへの興味が強くなり、農業高専へ進み、その後パドヴァ大学でも栽培と醸造学を修める。生まれ育った地域でのワイン造りを当初から考えていたフィリッポは在学中の 2009 年から、アーゾロのワイナリーで働き、卒業後も栽培/醸造コンサルタントとして活動してきた。

その後 2017 年に、家の一部をセラーとして少量ずつワイン造りを始める。栽培学と醸造学を修め、長らく醸造コンサルタントとしても働いてきたフィリッポだが目指すべきワイン造りはあくまでコンタディーノ＝農民の造るワインだと考えている。



フィリッポがワインを造るクレスピニャーガの村は 1717 年のヴェネツィア共和国の登記簿台帳でも確認できる地名で、ヴェネツィア共和国のためにワインを造ってきた歴史ある土地だとされる。1980 年代までは見渡す限りブドウ畑だったが、産業の発達やフラヴェシェンツァ・ドラータというウィルスを媒介する虫により、ブドウ産業は衰退してしまった。ラ・フランツァと呼ばれる区画には鉄分を多く含む赤土土壤に火打石が含まれ、ヴェネツィア人達によりブドウ畑として開拓され、銘醸の畑とされてきたそう。その丘の畑も 80 年代以降、土着品種と共に忘れ去られようとしていたので、その復興がフィリッポの目指すところだ。

畑と栽培について

畑のエリアはアーズロ・プロセッコ (Asolo Prosecco) のエリアにあり、もしスプマンテを造れば DOCG も取得可能だが、フィリッポはあくまで“ヴェネツィア人達の見出した”この地域のスティルワインにこだわる。そしてこの地で昔から造られてきたワインとは、という問いを立て、品種も全て土着品種のみで 2017 年からワイン造りをしてきた。畑はラ・フランツァとカ・ペーザロ、サン・マルティンの 3 か所に畑を所有し、赤と白のそれぞれ 3 品種ずつ栽培する。そして 2017 年から 6 年間にわたる醸造を経て、この地で彼が理想とするワインを造るため、白はビアンケッタ・トレヴィジャーナ、赤はレカルディーナに注力することを決めた。2025 年には大樽を導入し、2026 年から 2027 年にかけては、ラ・フランツァの畑の敷地内にワイナリーを建設する予定である。こうした背景から、2024 年 VT 以降は単一区画ごとのリリースをやめ、複数区画のブドウをブレンドし、品種の個性を前面に打ち出すワイン造りへと舵を切った。特に「レカルディーナ」はネッビオーロやサンジョヴェーゼと同じ舞台で評価され得る赤ワインを造ることが出来るはずだとフィリッポは意気込む。



セラーと醸造について

ワインを造り始めた 2017 年 VT から 2021 年 VT は自宅の一部でワインを造っていたが、2022 年からはラ・フランツァの畑の近くの小屋を借りて醸造。醸造設備も 2023 年現在、非常に簡素なもので、除梗機、破砕機とプレスステンレスタンクのみで醸造をしている。

